

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年12月3日（金）10時30分～11時55分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻室長補佐、新井安全審査官、小西係長、高木係長、横山係長、久川係員
澁谷企画調査官、知見主任安全審査官、高木技術参与（テレビ会議システムによる参加）

福島第一原子力規制事務所

廣岡原子力防災専門官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当9名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - サンプルタンク（K4タンク群）循環実証試験に伴う水移送について
 - ✓ 多核種除去設備（ALPS）処理水の厳格な放射能濃度の測定・確認用タンク群として使用予定のK4タンク群にて、2022年2月頃に10基のタンクを連結した循環実証試験を計画している。
 - ✓ 循環実証試験では、攪拌装置・循環ポンプによる流動により、試験タンク間に水位差が生じる可能性があり、現状の水位では、タンクH値を超える恐れがあることから、事前にタンク内包水約510m³を移送し試験タンク水位を低減させる。
 - ✓ 移送先は増設ALPSサンプルタンクとし、既設及び仮設移送ラインにて移送する。2022年1月実施予定で、移送期間は約5日間を予定している。仮設設備は堰内に構築し、漏えい拡大防止対策として、継ぎ手部には吸水材・ビニール養生（二重）を実施し、更に受パンを設置する。
 - ✓ 先月23日に別途実施したサンプルタンク（K4タンク群）攪拌実証試験については、現在試験結果に対する考察を含めたとりまとめを行っている。
 - 陸側遮水壁測温管150-7Sの温度上昇に伴う調査状況について
 - ✓ 陸側遮水壁内側浅部の掘削調査結果について、掘削範囲にて地下水は確認されなかったため、内外水位差が確保されていると評価している。また、掘削の深さG.L.-2.70m付近より深部にて地中温度0℃以下が確認されたため、陸側遮水壁は正常に機能していると評価している。
 - ✓ 陸側遮水壁外側浅部の掘削調査結果について、測温管160-7S付近では陸側遮水壁が機能しているが、軽油タンク基礎付近の陸側遮水壁外側浅部で、凍結していない箇所が存在することを確認した。
 - ✓ 今後の対応として、地下水が陸側遮水壁より下流側のK排水路に流入する過程において、凍結範囲の一部が融解し、陸側遮水壁測温管150-7Sの温度が上昇している可能性があることと推定されることから、12月初旬を目途に、陸側遮水壁測温管150-7S外側に試験的に止水壁を設置することで地下水の流入を抑制し、測温管150-7Sの温度変化、K排水路の湧水量の変化を確認の上、今後の対策工事の内容を検討する予定。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - サンプルタンク（K4タンク群）循環実証試験に伴う水移送について、今後、移送先を増設 ALPS サンプルタンクとした理由及びタンク内包水の移送容量を約510m³とした根拠並びに循環実証試験の詳細を説明すること。
- また原子力規制庁は、2021年11月5日に東京電力から説明のあった構内散水量変更に伴う実施計画の変更について、敷地境界での実効線量（評価値）の合計値には変更がなく記載の軽微な変更であるため、審査を要しないと判断し、記載の適正化として実施計画に反映するとともに、当該反映前に変更後の構内散水量で散水を実施しても差し支えない旨を東京電力に伝えた。

6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール（2021年11月25日現在）
- 水処理設備の運転状況、運転計画（2021年11月19日～2021年12月16日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2021年11月19日～2021年12月2日）
- 各エリア別タンク一覧
- 汚染水等構内溜まり水の状況（2021.11.11時点）
- 建屋内における残水等の状況について
- 福島第一原子力発電所における固体廃棄物について
- サンプルタンク（K4タンク群）循環実証試験に伴う水移送について
- 陸側遮水壁測温管150-7Sの温度上昇に伴う調査状況